

## 基礎コンピュータ工学 第5章 機械語プログラミング (パート6：残りの条件分岐命令と条件判断の演習)

<https://github.com/tctsigemura/TecTextBook>

本スライドの入手：



基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミング

1 / 8

## ジャンプ命令 (7種類) の残り3種類

無条件ジャンプ命令：プログラムの流れを指定のアドレスに飛ばす。

- **JMP (Jump)** 命令：いつもジャンプする。

条件ジャンプ命令：ある条件のときだけジャンプする。

- **JZ (Jump on Zero)** 命令：Z = 1 ならジャンプ
- **JC (Jump on Carry)** 命令：C = 1 ならジャンプ
- **JM (Jump on Minus)** 命令：S = 1 ならジャンプ
- **JNZ (Jump on Not Zero)** 命令：Z = 0 ならジャンプ
- **JNC (Jump on Not Carry)** 命令：C = 0 ならジャンプ
- **JNM (Jump on Not Minus)** 命令：S = 0 ならジャンプ

基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミング

2 / 8

## JNZ (Jump on Not Zero) 命令

Z フラグが0 なら (計算結果が0 でないなら) ジャンプする。

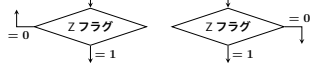
**フラグ：** 変化しない。

**ニーモニック：** JNZ EA (if (Z=0) PC ← EA)

**命令フォーマット：** 2 バイトの長さを持つ。

第1バイト		第2バイト	
OP	GR XR	aaaa	aaaa
1011 <sub>2</sub>	01 <sub>2</sub> XR	aaaa	aaaa

**フローチャート：** ある程度、自由にアレンジしてよい。

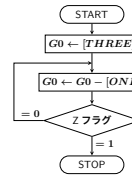


基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミング

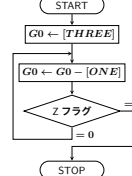
3 / 8

## JNZ 命令の使用例 (JZ 命令との比較)

ループを3回、繰り返すプログラム



番地	機械語	ラベル	ニーモニック
00	10 07		LD G0, THREE
02	40 08	LOOP	SUB G0, ONE
04	B4 02		JNZ LOOP
06	FF		HALT
07	03	THREE	DC 3
08	01	ONE	DC 1



番地	機械語	ラベル	ニーモニック
00	10 09		LD G0, THREE
02	40 0A	LOOP	SUB G0, ONE
04	A4 08		JZ STOP
06	A0 02		JMP LOOP
08	FF	STOP	HALT
09	03	THREE	DC 3
0A	01	ONE	DC 1

基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミング

4 / 8

## JNC (Jump on Not Carry) 命令

C フラグが0 なら (オーバーフローしていないなら) ジャンプする。

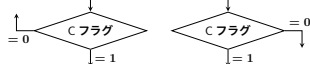
**フラグ：** 変化しない。

**ニーモニック：** JNC EA (if (C=0) PC ← EA)

**命令フォーマット：** 2 バイトの長さを持つ。

第1バイト		第2バイト	
OP	GR XR	aaaa	aaaa
1011 <sub>2</sub>	10 <sub>2</sub> XR	aaaa	aaaa

**フローチャート：** ある程度、自由にアレンジしてよい。



基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミング

5 / 8

## JNM (Jump on Not Minus) 命令

S フラグが0 なら (正かゼロなら) ジャンプする。

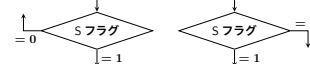
**フラグ：** 変化しない。

**ニーモニック：** JNM EA (if (S=0) PC ← EA)

**命令フォーマット：** 2 バイトの長さを持つ。

第1バイト		第2バイト	
OP	GR XR	aaaa	aaaa
1011 <sub>2</sub>	11 <sub>2</sub> XR	aaaa	aaaa

**フローチャート：** ある程度、自由にアレンジしてよい。

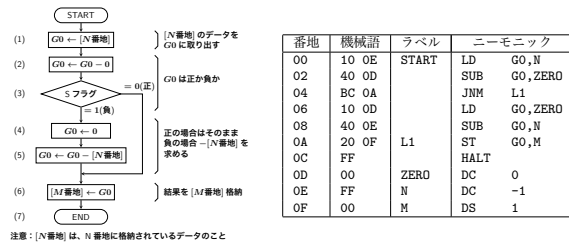


基礎コンピュータ工学第5章 機械語プログラミング

6 / 8

## 条件判断の例（JNM使用）

絶対値を求めるプログラム（例題5-1の改良）



- JNM を使用したほうが短くなる。

## まとめ

- 学んだこと  
必須ではないがあると便利な JNZ, JNC, JNM 命令

## ● 条件判断の演習

## 1. プログラムの作成手順を再度確認

- (1) フローチャートを描く。
- (2) フローチャートを基にニーモニックを書く。
- (3) アドレスを決める。
- (4) 機械語を作る。

## 2. 演習（宿題）

- (1) N 番地の値がゼロなら M 番地にゼロを、そうでなければ M 番地に 1 を格納するプログラム
  - LD 命令はフラグを変化させないので...
  - 前回の「条件判断2」のパターンを利用
- (2) N 番地の値と M 番地の値で、大きい方を L 番地に格納するプログラム
  - 値は符号付きの数値とする。
  - 比較は引き算でできる。